

早期水稲の中間管理および 普通期水稲の田植時の注意点について

平成30年6月7日
京築普及指導センター
J A 福岡 京築

早期水稲（4月中旬～5月上旬頃植え）

○ 生育概況

田植えが始まった4月中旬以降、平年よりも気温が高く推移したため稲の初期生育は順調です。今年は梅雨入りが5月28日頃と平年より8日早くなっており、向こう1か月予報では降水量は平年並から多く、気温は平年並～高い見込みです。今後は中干しを早めに始める等、以下のことに気を付けて管理を行いましょう。

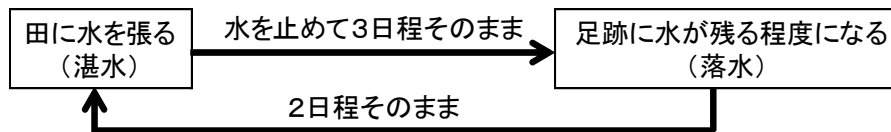
○ 今後の管理

1 水管理

4月中旬～5月上旬頃植えの早期水稲では、田植え後40日程度で有効茎数が確保（坪当たり60株植えで茎数18～20本、50株植えで22～24本）されますので、6月上旬～6月中旬頃に中干しを開始しましょう。

中干し終了の目安は、田面に小さなひびが入る程度です。田面が白く乾くまで中干しを行わないようにしましょう。

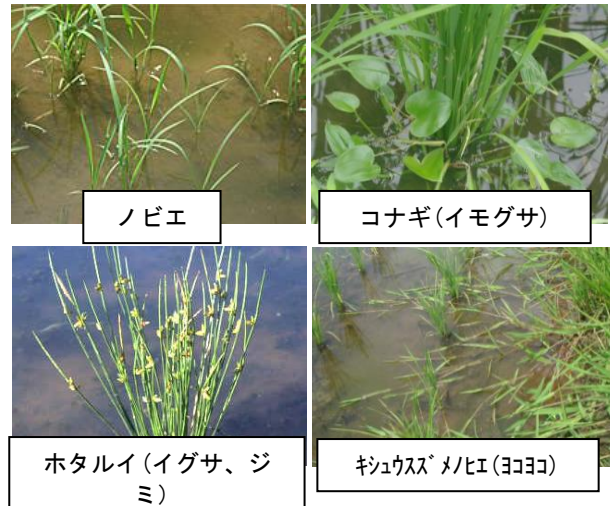
中干し後は、下図を目安に間断かん水（3湛2落）を行いましょう。



※幼穂が出来始めると新しい根は伸びませんので、中干し後は間断かん水により今ある根を健全に保ちましょう。

2 雑草対策

田植え後、右図写真のような雑草が残った場合は、残った雑草の種類に応じて、下表の除草剤から選択して使用してください。



除草剤、農薬の使用にあたっては、使用基準を確認して、周辺に飛散の無いように十分注意しましょう。

表1 中期除草剤（稲作ごよみ記載の除草剤）

対象雑草	農薬名	使用量 (10aあたり)	散布水量 (10aあたり)	使用時期	散布方法
ノビエ	クリンチャー1キロ粒剤	1 kg	25～100ℓ	田植え後7日～ L^{b} I4葉期まで	たん水
	クリンチャーEW	100ml		田植え後20日～ L^{b} I6葉期まで	落水
広葉 (イモグサ、 イグサ等)	バサグラン粒剤	3～4 kg	70～100ℓ	田植え後15～55日以内	落水
	バサグラン液剤	500～700ml		田植え後15～55日以内	落水
ノビエ+広葉	カービー1キロ粒剤	1 kg	70～100ℓ	田植え後15日～30日、 L^{b} I3葉期まで	たん水
	クリンチャーバスME液剤	1000ml		田植え後15日～ L^{b} I5葉期まで	落水

※クリンチャー剤は、キシュウスズメノヒエ（ヨコヨコ）にも有効です。

普通期水稻（5月中旬植え～）

○基肥の施用について

前年大豆を作付けしたほ場では、土壌に残っている窒素量が多く、倒伏の恐れがあるので、下表を参考に、基肥を稲作ごよみの基準の半分程度に減肥してください。
（※穂肥はこよみを基準に施肥してください。）

表2 稲作ごよみの基準の半分の施肥量（10a当たり）（目安）

品種	全層施肥	側条施肥
	ベスト444（14-14-14）	
夢つくし	15kg	13kg
元気つくし	18kg	15kg
ヒノヒカリ	20kg	18kg
ヒヨクモチ	25kg	20kg

※大豆後では、一発肥料は使わないのが原則です。

※しかし一発肥料を使用する場合は、基肥を基準の半分程度に減肥し、穂肥の時期に肥料が足りなくなる恐れがありますので、葉色を見て必要であれば穂肥を施用してください。

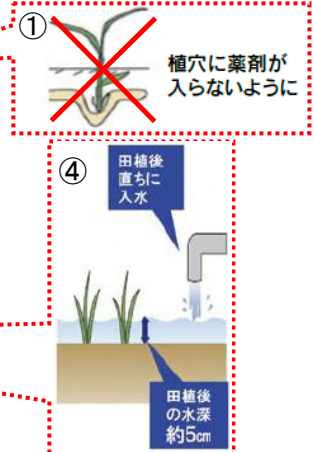
○除草剤の使用について

- 除草剤の1キロ粒剤の袋は箱施薬の袋と同じ大きさで、間違えやすいので注意してください。（※間違えて苗に除草剤を散布して田植えすると必ず枯れます。）

- 田植え同時処理について

近年、除草剤の田植え同時処理において薬害・効果不足が見られます。薬害・効果不足を防ぐためには、以下のことに注意して田植えを行ってください。

- ① 耕起、代かきを丁寧に行う。
（田面が固いと植穴の戻りが悪く、薬剤が根に直接接触れ、薬害の原因に。）
- ② 田植えは「ひたひたの浅水」で行う。
（水が少ないと薬剤が拡散せず、薬害・効果不足の原因に。）
- ③ 植え付け深度の確認。
（浅植えでは根が露出し、薬害の原因に。）
- ④ 田植後は直ちにたっぷり入水する。
（散布後に水が少ないと、効果不足の恐れ。）
- ⑤ 田植後7日間は落水、差し水をしない。
（途中で落水や入水を行い水を動かすと、除草剤の効果不足の恐れ。）



○ジャンボタニシ（スクミリングガイ）対策について

ジャンボタニシ（スクミリングガイ）は、田植え直後のイネを食害し、欠株等の被害を引き起こします。以下のことを参考に防除対策を行ってください。

- ① 田植後3週間（※除草剤使用時期を除く）までは「ひたひた水（超浅水）」管理を行い、被害軽減を図る。
- ② 田面が均平でないと水深の深い所が被害を受けるので、田面の均平化に努める。
- ③ スクミノンを10a当たり1～4kg浅水散布する。
- ④ 厳寒期（1月中～下旬）にほ場を浅耕（深さ5cm程度）して、越冬数を減少させる。



ジャンボタニシ
（スクミリングガイ）



浅水管理



ほ場内の凹凸が原因と思われる
被害発生ほ場